

授業科目名 (英文名)	環境保健論 (Environmental Health Science II)	科目区分 対象学生	
単位数	1.0	開講年次・ 学期	3年次・後期
担当教員	山崎 裕康	所属	非常勤講師
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>人は、個人、集団を問わずそれを取り巻く環境と密接に関わりあって生を営んでいる。それ故、人の健康を護ためには、環境の理解が必須である。本講義では下記の到達目標を掲げ講義を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 化学的環境要因や生物学的環境要因等による健康影響について説明できる。 2. 身近な環境や地球環境の現状を紹介し、それらが健康に及ぼす影響を説明できる。 3. 健康維持のために、環境に対して何をなすべきか具体的な提案ができる。 		
講義内容・授業計画	<p>講義内容 環境と健康の関わりを理解するための基礎として、科学的環境要因による健康影響(公害や産業衛生につながる)と生物学的要因(感染症につながる)を概説し、後者についてはさらに医療廃棄物、特に観戦性廃棄物等が抱える課題について考える。</p> <p>授業計画 授業は2コマ連続で4回、配布資料、教科書を中心にパワーポイント等を用いて行う。</p> <p>第1回 環境保健と健康、疫学と予防医学 第2回 環境要因と健康影響 第3回 地球規模の環境と健康(1) 第4回 地球規模の環境と健康(2) 第5回 地球環境(大気、水等)と健康 第6回 身の回りの環境と健康(室内環境) 第7回 職場環境と健康(産業衛生) 第8回 廃棄物の適正処理(医療廃棄物を中心に)</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 適宜プリントを配布</p>		
参考文献	<p>国民衛生の動向2019/2020 厚生労働統計協会</p>		
成績評価の基準・方法	<p>定期試験(80%)、受講態度及び講義終了時に適宜行う到達度確認小テスト(20%)</p>		
履修上の注意・履修要件	<p>必ず講義に出席すること。講義中にテキストやプリントに記載されていない重要事項が頻出するので、ノートをまめに取り、まとめておくこと。</p>		
実践的教育	<p>該当しない</p>		
備考			